

月日が経つのは早いもので、こちらに来てまる1年が経とうとしています。働き方や行政のしくみが日本と違い、いろいろと惑うこともありましたが、おかげさまで大きな病気もなく元気に暮らしています。そして「どんな国なんだろう」「やっていけるのか」という私の不安をいとも簡単に払拭してくれた優しくおもてなし精神のブルキナベに感謝。2年目も元気に頑張ります。

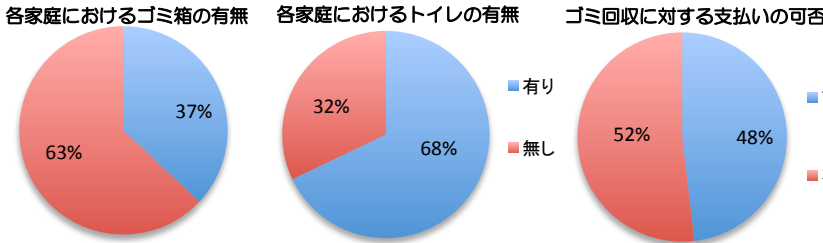
Quoi de neuf? ▶▶▶ クーペラ市の家庭の衛生状況とアフリカのゴミ対策

少し前になりますが、4月に地元環境啓発団体が各家庭への啓発（ゴミの回収について）及びアンケートを行いました。私はアンケートの項目にゴミ箱の管理状況や衛生状況も追加するようにアドバイス。クーペラは中規模の街ですが、2001軒ものお宅の現状を把握することができ、とても興味深いものでした。

ちなみにアフリカでは、家庭や商店のゴミ回収はゴミ収集所に出すわけだけでなく、多くの場合は各家庭がゴミ収集団体と契約をして専用ゴミ箱を設置し、月に回収費用（日本円で100円ほど）を支払ってゴミを回収しに来てもらうシステム。このゴミ箱がない家庭が多いのですが、回収してもらう準備（支払可能な）はできている、という答えは意外でした。設置するゴミ箱の数が足りれば、家庭ゴミをきちんとゴミ箱に捨てる、という習慣ができるかもしれません・・・（ゴミ箱がないと、塀の外にポイとするか燃やすことが多い）。さらに、困難な労働環境で働くゴミ収集団体（女性たち）の収入向上にもつながります。



ドラム缶を切ったゴミ箱がこちら主流（ブルキナファソ）



奉仕活動をする少女と清潔に保たれた街（ルワンダ）

「アフリカの奇跡」ルワンダってどんな国？

1994年、1日に10万人の人、3ヶ月で100万人の人が殺された国があります。それがアフリカ大陸の中央に位置するルワンダ共和国です。ツツ族とツツ族の民族対立により大虐殺が起きました。今年4月7日は虐殺からちょうど20年。ブルキナファソでも様々な特集番組が放送され、多くの人が「ルワンダのような悲劇を繰り返さない」と口にしていました。そうした「悲劇」のイメージができてしまったルワンダですが、後に発足した新ルワンダ政府は国のイメージを払拭すべく、インフラ整備、制度改革、汚職対策、環境対策などを精力的に進め、今ではその成長ぶりは「アフリカの奇跡」と呼ばれています。

とくに注目したいのは、ゴミが落ちていないキレイな街並。というのも、環境保護条例により海外からのビニール袋やポリ包装の持ち込みが禁止。スーパーでもビニール袋でなく紙袋が基本。さらに毎月最終土曜日は「国民奉仕の日」。どんな人もコミュニティで清掃などの奉仕活動に参加しなければいけないため、この日は商店もスーパーも休み、バスも走っていません。おかげで街にはゴミひとつ落ちていません。ポイ捨てが当たり前のアフリカで、この徹底ぶりはまさに奇跡。ブルキナもルワンダに習わなければ！

Qu'est-ce que c'est? ▶▶▶ ブルキナファソの学校教育について

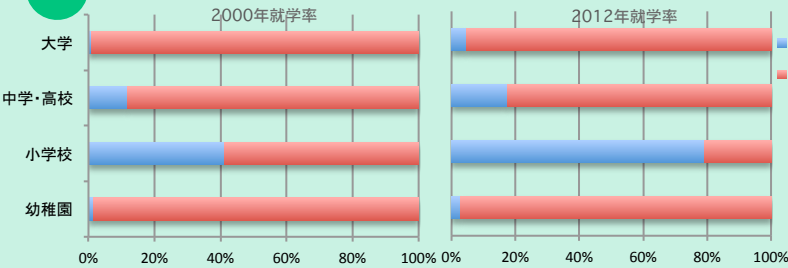
アフリカは就学率や識字率が低い、という印象をもたれる方も少なくないのではないのでしょうか？ ここブルキナファソでも、学校教育は政府の課題として重要視されていて、ここ十数年で大きな変化が見られています。

ブルキナファソの教育システム

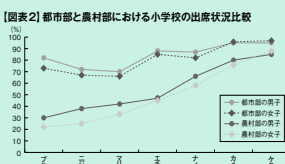
基本的にはフランスの教育制度と同じ。小・中学校は義務化されており、CP2,CE2,CM2でそれぞれ進級試験があり、不合格者は留年してしまいます。★マークは卒業時にもらえる資格で、公務員等、たいていの職業はB.E.P.C.(中卒資格)まであれば受験できます。



就学率や識字率は本当に低いのか？



2002年より、基礎教育開発10年計画（PDDEB）（～2011）が設定され、2010年までに総就学率を78.2%、成人識字率を40%にまで高めることを2大目標として取り組みがなされました。この事業のおかげで、教育の重要性が広まり就学率は大きく向上しましたが、今でも親の理解が得られない村の子どもや授業についていけない子どもは学校に行かない、学校を途中でやめてしまうという現状もあります。未だに西アフリカの小学校就学率平均（92%）を下回っています。※西アフリカ以外に小学校就学率100%を達成。小学校就学率は年齢問わず、中高就学率は13～19歳に限って算出（中高には大人も多く通うため）。



ブルキナファソの制服は指定された布を買って仕立てる家で作られています。



上の写真は私立小学校の制服、下の写真は幼稚園の制服です。

教育現場の課題は？

PDDEBにより、他国のプロジェクト等でさらに学校が建設され、小学校に通う生徒数も急上昇しました。一方で子どもを教育する教師数が追いつかず、人数確保のため、これまで教師になる必須条件であった2年間の研修を1年に短縮。BACでなくBEPC取得でも可能ないというところから、教師の質の低下が問題になっています。さらに、教師の数に対して担当の生徒数が大量のため（1クラス100人を超えることも）、一人一人の理解に合わせた授業も簡単ではなく、結果として子どもが授業についていけず、途中で学校をやめてしまう、というケースもあります。大人数の教室が騒然となったときは手をあげて黙らせる・・・という光景が見られるのも事実（体罰は禁止になっているにもかかわらず）。教育の質と有能な教師の確保が今後の課題と言えます。



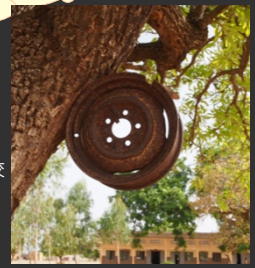
クイズ du Burkina

学校編

Q1. ブルキナファソの学校で必ずといっていいほど見られる、木に吊るされたタイヤのホイール(写真右)。これは何のために使うのでしょうか？

Q2. 日本の学校にもあり、ブルキナファソの学校にもある部屋は次のうちどれでしょうか？

- ①職員室 ②給食室 ③保健室



Ensuite? ▶▶▶ イスラム教徒のラマダン事情

イスラム教徒のラマダンの事情について。ブルキナファソにはイスラム教徒が約10%を占め、ラマダンの期間には断食を行います。この期間には学校や職場で断食の配慮が求められます。また、断食期間には特別な食事を提供されることもあります。ブルキナファソのイスラム教徒は、断食期間には特別な食事を提供されることもあります。また、断食期間には特別な食事を提供されることもあります。



この写真の詳細は右のクイズで。。。 (写真提供: 松永朋子隊員)